土器について調べよう

縄文土器（第１展示室）

縄文土器を一つ選んでスケッチしよう。

スケッチした土器は、いつごろ 作られたものですか。

弥生土器（第１展示室）

次の弥生土器の名称を下から選んで、それぞれ記号で答えましょう。

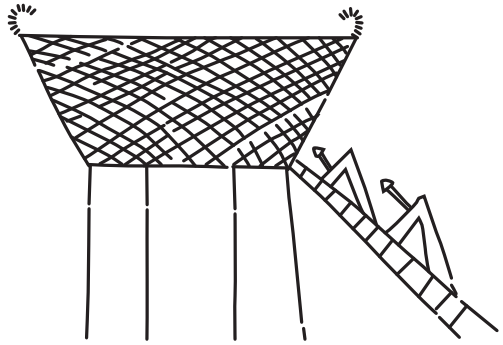
（ア）壺（イ）甕（ウ）水差し

上の(ア)〜(ウ)の中で、
①煮炊きをする土器
②穀物などを貯蔵する土器
はそれぞれどれでしょう。
（記号で答えて下さい）

①(　　)　②(　　)

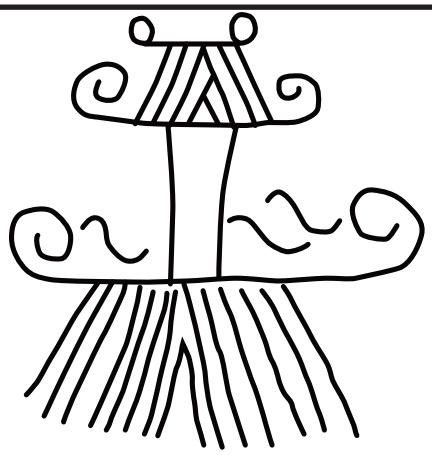
土器を使うようになって、人々の生活はどのように変わりましたか？

絵がえがかれた弥生土器をさがしてみよう！（第１展示室）　1-2



左の絵にえがかれた建物を何といいますか。

この建物は何に用いられたのでしょうか。



左の絵は何をえがいたものでしょうか。

この絵がえがかれた土器は、奈良県の何という遺跡で見つかりましたか。

須恵器（すえき）と土師器（はじき）（第２展示室・第３展示室）　須恵器と土師器を比べてみよう！

須恵器

○(　　)色のものが多い。

○それまでの土器よりも(　　)、水もれしにくい。

○作り方は(　　)半島から来た(　　)によって伝えられた。

土師器

○(　　)色のものが多い。

○(　縄文　・　弥生　)土器ににている。(どちらかを○で囲もう)

☆土器についてもっと知りたい人は「映像(ビデオ)ライブラリー」にも行ってみよう！

「分野」→「古代の技術」→「古代の土器」の順番に画面にタッチ

石器について調べよう

石器について、次の問題に挑戦しよう！

問題1 人類のおこりから300万年以上続いた、打製(だせい)石器を使って採集(さいしゅう)や狩(か)りを行っていた時代を何時代と言いますか。

問題2 奈良県で発見された石器で一番古いものは、今から何年ぐらい前のものだと考えられていますか。

問題3 かたくて、するどい割れ方をするので、石器の原石として利用された、香芝市(かしばし)の二上山(にじょうざん)でとれる石を何と言いますか。

問題4 石では作れない「釣針(つりばり)」などは、何で作ったのでしょうか。

次の石器を「第１展示室」の中でさがして、見つけたものには○をつけましょう。

ナイフ形(がた)石器

石鏃(いしぐわ)

石斧(いしおの)

尖頭器(せんとうき)

文化庁 平成 29 年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

次の石器はそれぞれ何に使ったのか、どのように使ったのかを考えましょう。 2-2

石　器		何に使ったのか？どのように使ったのか？
せき　ぞく 石　鏃		
いしざら 石皿と すりいし 磨石		［ヒント］石皿の真ん中のくぼんだところに何があるでしょう。
ぎょぶつ 御物石器		※実は、この石器は学者にとってもまだナゾの道具です。みなさんで自由に考えてみて下さい。
いしぼうちょう 石庖丁		［ヒント］２つの穴にひもを通して使いました。

発　展

現在でも使っている「石で作った道具」にはどんなものがあるでしょう。

☆石器についてもっと知りたい人は「映像(ビデオ)ライブラリー」にも行ってみよう！

「時代」→「旧石器・縄文・弥生時代」→「石器時代の大和」の順番に画面にタッチ

「埴輪（はにわ）」について調べよう

「埴輪」は、粘土（ねんど）を焼いて作った土器で、古墳の上にならべられました。「埴輪」には大きく分けて、円い筒のような形をしたもの（円筒（えんとう）埴輪）と、人間・動物・家・さまざまな道具などの形をしたもの（形象（けいしょう）埴輪）の２種類があります。

円筒（えんとう）埴輪

この博物館にある
日本最大の「円筒はにわ」

今からおよそ1700年前のものです。

高さ
およそ
（　　）
メートル

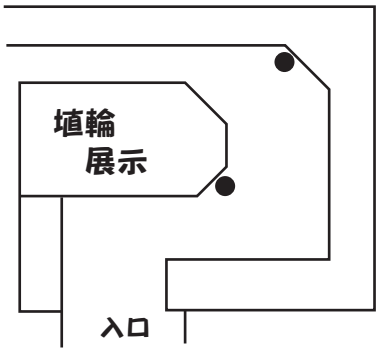
（桜井（さくらい）市「メスリ山古墳」出土）

「円筒はにわ」の役割は何でしょう。

どうして、こんな大きなものを作ったのでしょう。

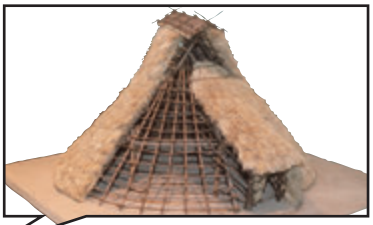
「円筒埴輪」にさわってみよう！

あなたがさわったのは、およそ1500年前の「円筒埴輪」の破片です。さわってみた感想を書きましょう。



●印の2ヵ所で実物にさわってみることができます！

形象埴輪（けいしょう）



「家形埴輪（いえがた）」をひとつ選んで、スケッチしましょう。

「竪穴住居（たてあなじゅうきょ）」と比べて、どんなところが違（ちが）っていますか。

次の「形象埴輪」を「第２展示室」で探して、見つけたものには○をつけましょう。

鹿（シカ）

舟（ふね）

椅子（いす）に座（すわ）る男

馬（ウマ）

さまざまな「形象埴輪」からわかる、当時のようすをまとめましょう。

☆「埴輪」についてもっと知りたい人は「映像（ビデオ）ライブラリー」にも行ってみよう！

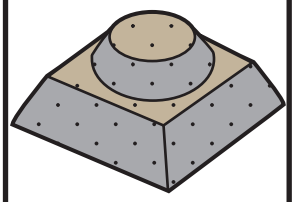
「時代」→「古墳時代」→「はにわの動物たち」の順番に画面にタッチ

「古墳（こふん）」について調べよう

「古墳」は、約1750年前（３世紀の中ごろ）から、各地の王や豪族（ごうぞく）をほうむるためにつくられた墓です。ほとんどの古墳は、土をもってつくった小山のような「墳丘（ふんきゅう）」をもち、当時の王や豪族（ごうぞく）は、大きな「古墳」をつくることによって力の大きさを示したと考えられています。

古墳の種類

古墳は、「墳丘」の形によってさまざまな種類があります。
空欄の古墳に、それぞれの形をスケッチしましょう。

			
円墳	方墳	上円下方墳（じょうえんかほうふん）	前方後円墳

棺（ひつぎ）の種類

古墳の中にはさまざまな棺がおさめられていました。
何とよばれているでしょう。「第2展示室」や中庭に
展示してあるのを探して、その名前を書きましょう。

古墳におさめられたもの

古墳の石室(せきしつ)や棺(ひつぎ)には、さまざまな品物がおさめられました。その品物から、王や豪族(ごうぞく)の力の強さや大陸とのつながりもわかります。

①次のものを第２展示室で探し出して問題に答えましょう。

4-2

車輪石(しゃりんせき)

これは何でできていますか。

（　　）

名称は（　　）

どんな色があるでしょう。

（　　）

銅鏡(どうきょう)（内行花文鏡(ないこうかもんきょう)）

古墳によっては 30 枚以上の鏡がうめられていました。なぜ鏡を古墳におさめたと思いますか。

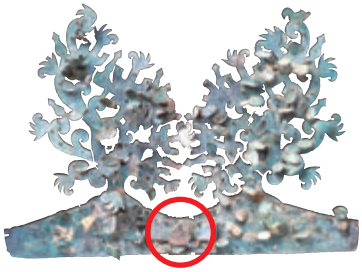
甲冑(かっちゅう)と刀

何で作られていますか。

（　　）

（　　）

②「藤(ふじ)ノ木(の き)古墳」(斑鳩町)におさめられていたものを観察しましょう。



金銅製(こんどうせい)（　　）

（　　）金具（後輪(しずわ)）

金銅製(こんどうせい)（　　）

※復元品が正面入り口にあるよ

○の部分には、それぞれ動物がデザインされています。何でしょう。

☆古墳についてもっと知りたい人は「映像(ビデオ)ライブラリー」にも行ってみよう！

「時代」→「古墳時代」→「古墳の形態」の順番に画面にタッチ

「分野」→「服装とアクセサリー」→「玉はよみがえる」の順番に画面にタッチ

「発掘調査」→「古墳時代」→「藤ノ木古墳の開棺調査速報」の順番に画面にタッチ

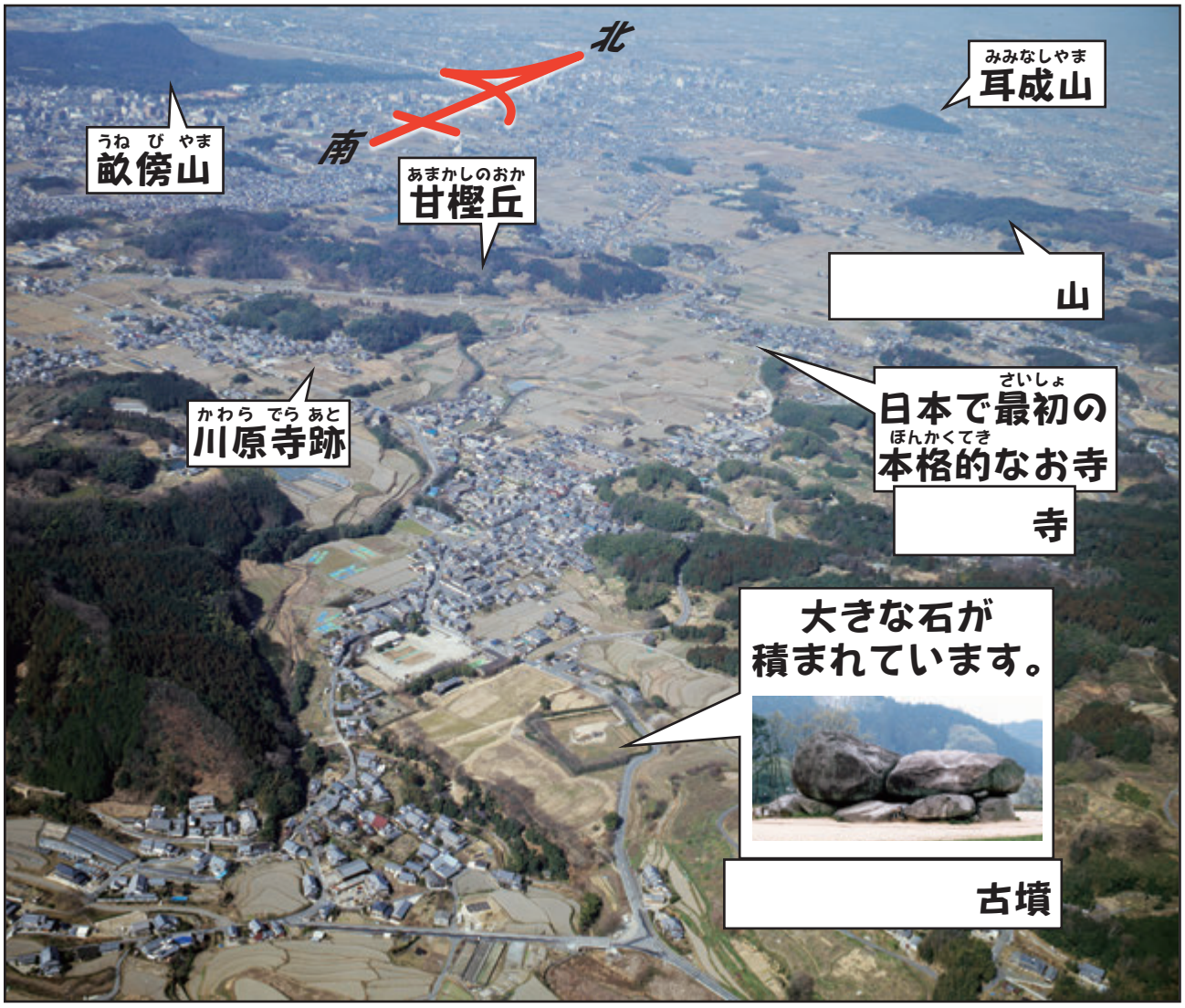
「飛鳥宮跡（あすかきゅうせき）」について調べよう

飛鳥（あすか）は香久山（かぐやま）（香具山）の南、飛鳥川東岸の東西0.5ｋｍ、南北1ｋｍというせまい地域です。『日本書紀』によると、592年に推古天皇（すいこてんのう）が豊浦宮（とゆらのみや）で位（くらい）につき、それからおよそ100年間にわたって宮（みや）（天皇の住まい、政治の中心）は、ほぼこの飛鳥におかれ、天皇を中心とした国づくりが進められました。

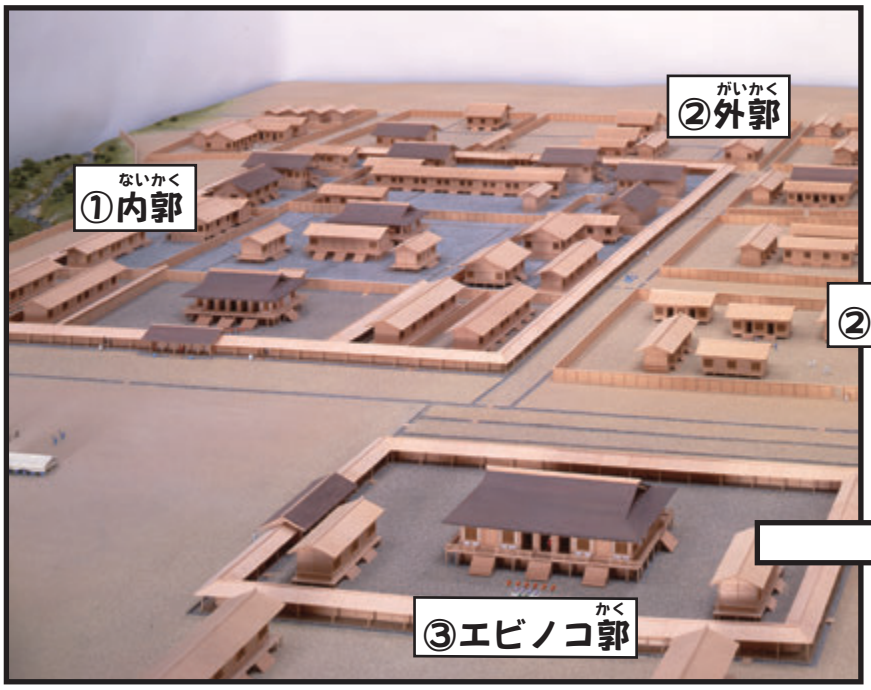
次の航空写真は、飛鳥の地を南東上空から撮影したものです。

①「飛鳥宮跡」の位置を□で囲みましょう。

②（　　）に山・寺院・古墳の名前を書きこみましょう。



第３展示室にある「飛鳥の宮」の模型は、673年に位についた天武天皇の「飛鳥浄御原宮」という宮殿を、これまでの発掘調査の結果をもとに復元したものです。



※「郭」とは、壁などで囲まれた場所のことです。

それぞれの「郭」を①～③の番号で答えましょう

○天皇が公的な儀式を行う。　→(　　)

○天皇が暮らしている。　→(　　)

○役所の建物が並んでいる。　→(　　)

【ヒント】
タッチパネル⑥
「模型を見る」で調べてみよう。

模型をよく見て、気がついたことをまとめましょう。

☆飛鳥宮跡についてもっと知りたい人は「映像(ビデオ)ライブラリー」にも行ってみよう！

「分野」→「すまい・都市」→「宮と京(１)」の順番に画面にタッチ

「時代」→「飛鳥時代」→「復元・飛鳥の宮」か「復元・エビノコ郭」の順番に画面にタッチ

「分野」→「すまい・都市」→「飛鳥の宮　復元制作記録」か「エビノコ大殿　復元制作記録」の順番に画面にタッチ

「木簡」から貴族や役人の生活を調べよう

墨で書かれた木の切れはしのことを木簡といいます。奈良時代のころまでは、紙は貴重品でしたので、このように木の切れはしが紙の代用品として使われており、私たちに当時のようすを伝えてくれています。

(1) 左大臣（現在の総理大臣にあたる地位）だった長屋王の家のあとから発掘された「木簡」から、長屋王が食べていたものを調べてみましょう。

少初位下高屋連家麻呂
年五十
右京
六考日并千九十九
六年中

(2) 右の「木簡」は平城京「右京」に暮らしていた高屋連家麻呂という下級役人（「少初位下」というのは役人の中で最も下の位です）の６年間の働きぶりについて書かれた記録です。

◇この「木簡」を展示室で見つけましたか？（ はい ・ いいえ）

◇家麻呂は何歳ですか。＿＿＿＿＿＿歳

◇家麻呂は６年間で何日働きましたか。＿＿＿＿＿＿日

◇家麻呂は１年間で、平均何日働きましたか。＿＿＿＿＿＿日

◇家麻呂の仕事ぶりは、どのように評価されていますか。

(3) 都の役人は、筆や小刀を使って紙や「木簡」に記録をつけていたことから、「刀筆の吏」とも呼ばれていました。小刀は何のために必要だったのでしょう。

文化庁 平成 29 年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

Memo